

令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	54	学校名	静岡県立榛原高等学校	記載者	田形 和彦
------	----	-----	------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評価	意見
ア	自主的、主体的に取り組む生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒・教職員とのコミュニケーションが取れている 85% ○携帯・スマホ等の適切な利用ができている生徒 90% ○地域貢献活動参加生徒 300 人 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「学校生活に満足している」割合が 89.3%と高い数値を示しており、生徒は主体的に学校生活を過ごしていることがわかる。 ・ボランティア活動等地域貢献活動への参加者が目標値に届いていない。積極的な啓発活動が必要である。 ・「総合的な探究の時間」のさらなる充実を期待している。
イ	確かな学力と批判的思考力を持ったグローバル人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○授業での生徒同士の対話や考えを発表する機会が多い生徒 90% ○探究活動を通して思考力や協働的姿勢が身に付いた生徒 80% ○家庭学習が定着している生徒 85% ○国内外での研修等に参加した生徒の満足度 85% ○地域との連携事業への参加生徒 150 人以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での生徒同士の対話や考え方を発表する機会が多いと感じる割合を高めるために教員の授業改善を推進してほしい。 ・探究活動を通して思考力や協働的態度が身に付いた感じる割合がほぼ目標値に近い値を示しており、評価できる。 ・家庭学習の定着について、生徒の意識と保護者の意識にギャップが見られる。自己目標の実現に合わせて、生徒自身が主体的に家庭学習に取り組む姿勢を育成してほしい。 ・グローバル人材の育成が課題である。BYODの導入により、グローバル教育の幅を広げていく。
ウ	系統的できめ細やかな進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導に満足している生徒 85% ○大学入学共通テスト全教科偏差値 50 以上と国公立大学合格者 40%以上 ○難関国公立大学及び医歯薬学部進学者（理数科3年生）20%以上、希望者（理数科1・2年生）40%以上 ○進路のための勉強会年6回以上 ○HAFプロジェクト等での活動を活かして進学する生徒 10 人以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に満足している生徒の割合は、目標値に対して生徒・保護者ともにほぼ達成しているが、卒業する時点での満足度を重視すべきである。 ・難関国立大学や医歯薬学部への進学者及び希望者を増やすために、「志」を育むために、諸先輩の講話や具体的な情報提供を行うなどの機会を積極的に提供すべきである。 ・進路のための勉強会については、満足度も高く、成果が出ている。保護者に最新情報の提供を行うことで、生徒が望む進路選択を応援する体制がより強化されていると感じた。

様式第5号

エ	安全安心で魅力ある環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ、体罰、重大交通事故 0件 ○教育相談に満足している生徒 80%、保護者 70% ○施設・設備不良が原因の事故 0件 ○教職員・生徒が感染症予防を徹底している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒課を中心にして、定期的教育相談やSCの活用により、生徒・保護者に安心感を持たせることが大切であるが、それ以上に先生と生徒の間に日頃から温かな人間関係を築くことが重要である。学級担任、教科担任、部活顧問が生徒一人一人を大切にしている言動を積み上げていくことを共通理解として持っていてほしい。 ・修繕すべき個所が多いが、危険個所や不良個所の把握と迅速な修繕等により、施設・設備不良が原因での事故が発生することなく、生徒が安全・安心に過ごすことができた。
オ	教職員としての資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業の実施・見学年2回以上 80% ○新学習指導要領、学習評価について理解している教員 80% ○研修・視察の内容・成果を共有している。 ○他の授業が参考になった 70% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の授業力向上と新学習指導要領に則った探究活動、思考力・協働的姿勢の育成のため、生徒にとって「わかる」「できる」授業を職員研修として積み上げ、教員としての資質向上につなげてほしい。 ・次年度からBYODを導入することで、ICT機器等を活用する機会も増える。ICT機器等を活用した授業見学や研修などを積極的に行い、授業改善に活かそうという姿勢を持ち続けてほしい。次年度に期待している。
カ	今日的課題への積極的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者の学校満足度 90%以上 ○協働、連携していると思う教職員 85%以上 ○学校HP記事を月に15以上アップ ○学校広報誌を月1回発行 ○会議の終了時刻が計画どおりであった 70% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、保護者の学校満足度が90%以上あり、学校への信頼の高さがうかがえる。また、教職員の協働連携に対する意識、所属感の高さも感じられた。これらは、今後校内で教育活動に取り組んでいく上でたいへん心強いデータであり、学校の成長につながる要素である。 ・保護者の満足度をさらに上げるには、生徒の満足度を上げることが必要である。引き続き魅力的な高校づくりをお願いしたい。 ・学校HP、学校広報紙は大事な学校のPRのツールであり、学校・生徒・教員の日頃の活動や榛原高校の特色を発信する場である。広報紙などは区内の中学校、公民館、地区町内会の回覧等にも積極的に発信してほしい。 ・今後もさまざまな課題に対して、教職員が一体となり取り組んでいくことを期待している。